

特集「ジェンダーと色彩」 Special Issue: Gender and Color

色のジェンダーステレオタイプに対するデザイン系大学生の意識に関する調査

A Survey on Design Students' Awareness of Gender Stereotype of Color

筒井 亜湖

Ako Tsutsui

鈴木 万里

Mari Suzuki

東京工芸大学

Tokyo Polytechnic University

東京工芸大学

Tokyo Polytechnic University

キーワード：色のジェンダーステレオタイプ, 意識調査

Keywords: Gender Stereotypes of Color, Awareness Survey

1. はじめに

街中や商業施設などを歩いていると、トイレのマークをよく見かける。高彩度の赤と青で表されていることが多く、遠くからでも視認しやすい。現代日本人は、トイレのピクトグラムの色が赤であれば女性のトイレで、青であれば男性のトイレであることが一目でわかる（ただし、JIS規格では色の規定はない¹⁾。特に近代以降の日本には、「男性らしさ」「女性らしさ」という表現にみられるように、性別に対する固定観念が存在してきた²⁾。男性と女性はカテゴリー的に二分され、両者の境界は明瞭であった。すなわち、男性と女性は全く性質の異なるものとみなされてきた。

色は我々にさまざまな意味を喚起させる。そして、色の違いは性質の違いを我々に知らせる³⁾。信号や道路標識に使用される安全色⁴⁾などからレモンとライムの違いまで、我々の身の回りには色によってその性質の違いを表しているものが多く存在している。性質の違いを表すことが得意なのが色である。男性と女性が色で区別され、それらの概念と色の連合が固定化されていったのは必然であろう。このように、色は性別を区別するためのツールとして利用され、結果として色そのものが「男性」「女性」だけでなく、男性「らしさ」や女性「らしさ」をも意味するようになったと考えられる。

2015年9月にニューヨークの国連本部にて開催された「国連持続可能な開発サミット」において採択された、いわゆるSDGs⁵⁾では17の国際的に達成されるべき目標が定められているが、そのうちの5番目の目標とされているのが「ジェンダー平等（Goal 5. Achieve gender quality and empower all women and girls）」である。いまだに日本のジェンダーギャップ指数は低く、2023年時点は146カ国中125位とのことである⁶⁾。では、日本社会全体がジェンダー不平等をもたらすような旧来型の固定観念に支配されているかといえば必ずしもそうではなく、電通総研により18歳から79歳までの3,000名を対象に実施されたジェンダーに関する意識調査⁷⁾によると、「Q3-10 男は男

らしく、女は女らしくあるべきだ」という質問項目について、特に若年層においては72%（女性77%、男性68%）が「あまりそう思わない」または「そう思わない」と回答している。

また、ジェンダーの問題だけでなく、近年ではさまざまな分野において多様性を理解し受け入れようという機運が高まっている。「男性」「女性」と二分して捉えるのではなく、連続体として人々の性質を捉えるというのが、現代的な考え方といえよう。それに伴い、色の使用においても従来の固定観念にとらわれずに各個人が自由に色を選択できる事例が近年では増えてきていると感じる。そのような時代背景のなか、現代を生きる若者世代、特に表現者を目指す若者達が色のジェンダーステレオタイプについてどう感じ、考えているのか、若者世代が抱く色の選択や使用における違和感の有無やその程度を捉えることを目的とした調査を実施した。

2. 方法

2.1 調査実施日

調査は2023年9月に、調査実施大学からの承諾を得た上で、筆者が担当する色彩関連の授業内において対面にて実施した。

2.2 調査対象者

調査対象者は、首都圏の大学における芸術学部デザイン系学科に所属する大学生285名（平均年齢19.48歳、SD = 1.44¹⁾）であった。その内訳を表1に示す。表に示した通り、本調査における参加者の男女比には偏りがみられた。

表1. 調査対象者の内訳

性別	人数	(%)
女性	177	(62%)
男性	98	(34%)
どちらでもない	4	(1%)
回答しない	6	(2%)
合計	285	

1 回答しないと答えた4名を除く。

参加者には事前に調査への参加は任意であることや途中での中断が可能であること、また成績とは関連づけられないことなどへの同意を得た上で、調査への参加を求めた。なお、氏名等の個人の特定が可能な情報の記入は求めず、参加者は匿名により調査に参加した。

2.3 調査項目および手続き

ジェンダーステレオタイプおよび色のジェンダーステレオタイプに関する簡単な説明²の後、自分自身または他者のジェンダーステレオタイプの的な色の選び方・使い方や、色のあてがわれ方への意識、および社会におけるジェンダーステレオタイプに従った色の使用に関する意識について、任意回答項目を含む計28の質問への回答を求めた（それぞれの質問については付表を参照）。回答方法は7件法リッカート尺度、選択肢、または任意での記述回答を含んだ。

調査は対面で実施し、調査者による口頭での指示に従って進行した。回答はGoogle Formsを使用してオンラインにより収集した。所要時間は約40分であった。

3. 結果と考察

本稿では、紙面の都合上、自分自身または他者のジェンダーステレオタイプに従った色の使用や選択、および色のあてがわれ方に関する意識に関する質問（付表、質問1および質問2）から得られたデータを報告する。

3.1 自分自身のジェンダーステレオタイプに基づく色の選び方等に関する質問

ジェンダーステレオタイプに従った自分自身の色の使い方や選び方、色のあてがわれ方について違和感を抱いたり制限を感じたりした経験があるかを、以下の3項目に分けて質問した。データの集計は参加者全体に加え、参加者比率に偏りはあるものの、男女ごとの集計も行った。また、男女のデータについては分布の差の検定も実施した。

3.1.1 色の選び方・使い方に関する違和感

自分が色を選ぶときや使うときに、従来のジェンダーステレオタイプに関連した制限を感じた経験があるかを、1（全くない）から7（とてもある）までの間で最も自分の考えに合う数字を選択するよう求めた。（付表、質問1-1）。集計結果を図1に示す。

2 これから、色のジェンダーステレオタイプに関するご自身の経験や考えを回答していただきます。『ジェンダーステレオタイプ』とは、「男性らしさ」や「女性らしさ」といった特定の性別に対して社会に浸透している固定観念のことを意味することばです。

例：男性は強く賢くあるべきで、女性は弱く優しくあるべきだ。『色のジェンダーステレオタイプ』とは、「男性なら青や黒」や「女性なら赤やピンク」といった特定の性別に対して社会に浸透している色の固定観念を意味することばです。

質問1-1: 自身の色の使用や選択において、ジェンダーステレオタイプに関連した制限を感じたことがあるか

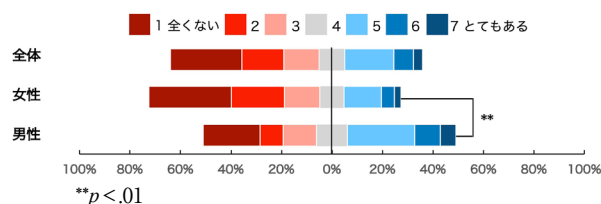


図1. 全体および男女ごとの、質問1-1の結果

全体としては1から3が多く選ばれる傾向がみられ、全体の60%を占めていた。現代の若者世代においては、あまりジェンダーステレオタイプにとらわれることなく色を選択・使用しているようである。ただし、分布の傾向には男女差が認められ ($\chi^2(6)=16.72, p=.010$)、男性は女性よりも制限を感じやすい人が多い傾向がみられた。男性では1から3のいずれかを選択した人の割合が45%、5から7を選択した人は43%であり、ほぼ同率であった。一方で、女性では1から3の合計選択率は68%、5から7の選択率は23%であった。

3.1.2 色のあてがわれ方に関する違和感

次に、自分の意志とは関係ない場面において自身に色があてがわれたとき、色のジェンダーステレオタイプに関連した制限を感じた経験があるかを尋ねた（付表1-2）。その結果を図2に示す。

質問1-2: 自身にあてがわれた色において、ジェンダーステレオタイプに関連した制限を感じたことがあるか

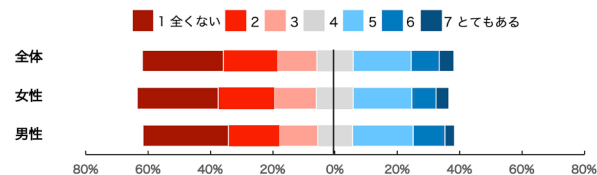


図2. 全体および男女ごとの、質問1-2の結果

全体の56%が1から3のいずれかを選択しており、あまり制限を感じていない人が半数以上を占めたが、回答には若干のばらつきがみられ、32%は5から7のいずれかを選択していた。よって、自分自身にあてがわれた色に関しては、程度の差はあれ違和感を覚えている人も一定数存在するようであった。

3.1.3 他者へのプレゼントを選ぶ際の違和感

自分が他者へ色を選ぶとき、色のジェンダーステレオタイプに関連した制約などを感じた経験があるかを、3項目に分けて尋ねた（付表1-3）。結果を図3に示す。

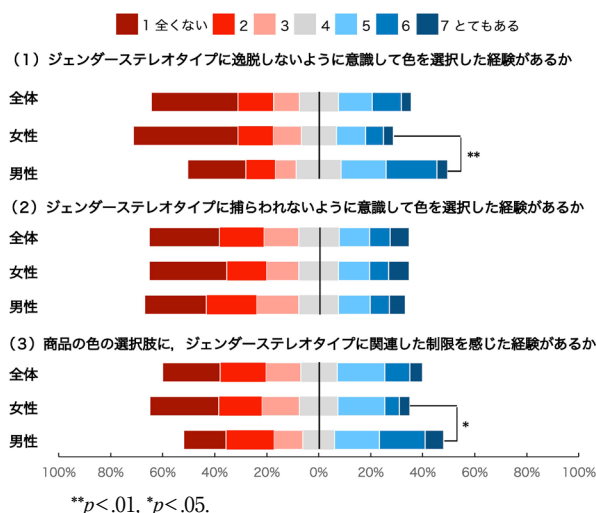
(1) ジェンダーステレオタイプにあった色を選ぶか

他者へ色を選ぶ際に、ジェンダーステレオタイプを逸脱しないようにした経験があるかを尋ねた（図3(1)）。

全体としては、1から3までの選択率は計56%であり、若干ではあるがあまり気にしないで色を選択する

という回答が多かった。一方で男女間には分布の差が認められ ($\chi^2(6) = 17.73, p = .007$), 1 から 3 の選択率の合計は女性では 64%, 男性では 42% であり, 5 から 7 までの合計選択率は女性では 22%, 男性では 41% と, 大きな差がみられた。男性の方が他者に対して色を選択する際, ジェンダーステレオタイプに逸脱しないようにする人が多い傾向が認められた。

質問1-3: 他者へのプレゼントにおいて, ジェンダーステレオタイプに関連した色の制限を感じたことがあるか



** $p < .01$, * $p < .05$.

図3. 全体および男女ごとの, 質問1-3の結果

(2) ジェンダーステレオタイプに従わない色を選ぶか
他者へ色を選ぶ際に, ジェンダーステレオタイプに関連した制限にとらわれないように意識した経験があるかを尋ねた (図3(2)).

全体および男女別ともに1から3のいずれかを選択する人が多かった。これは, ジェンダーステレオタイプに従った色を選択するというより, プレゼントの色を選ぶ際にそういったことを意識しない人が多いと解釈すべきであろう。実際に, 事例回答では「相手の好きな色を選ぶ」や「相手に似合うかどうかで選んでおり, 性別については気にしない」という回答がみられた。

(3) 製品の色における制約

他者へのプレゼントを選ぶ際に, 製品の色を選択肢においてジェンダーステレオタイプに関連した制約を感じた経験があるかを尋ねた (図3(3)).

全体としては1から3までの選択率がやや高い (計53%) が, 回答にはある程度のばらつきがみられた。また, 男女間にも分布の差が認められ ($\chi^2(6) = 13.93, p = .030$), 1から3までの選択率の合計は女性で58%, 男性で46%, 5から7までに限っては女性では28%, 男性では42%であった。

全体を通してみると, 若年世代ではジェンダーステレオタイプにとらわれずに色を選んだり, 使ったりしている傾向が認められた。一方で, 自分の意志とは無関係にあてがわれた色に関しては, 違和感を抱いてこ

なかつた人と抱いたことがある人とでデータが二分する傾向がみられた。また, 男女間の比較においては, 男性の方が色の使用や選択においてジェンダーステレオタイプに関連した制限を感じやすい傾向がうかがわれた。

3.2 他者のジェンダーステレオタイプに基づく色の使用に関する質問

ジェンダーステレオタイプに従った他者の色の使い方や選び方, 色のあてがわれ方について違和感を抱いた経験があるかを, それぞれ2項目に分けて質問した (付表, 質問2を参照)。

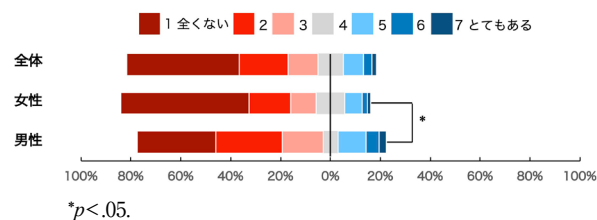
3.2.1 他者の色の選び方・使い方に関する違和感

他者の色の選び方や使い方について, ジェンダーステレオタイプに関連した違和感を抱いた経験があるかどうかを尋ねた (付表2-1 および2-2)。

(1) ジェンダーステレオタイプに一致している場合

他者の色の選び方や使い方がジェンダーステレオタイプに一致する場面において, 違和感を抱いた経験があるかを尋ねた (図4)。

質問2-1: ジェンダーステレオタイプに一致した, 他者の色の使用や選択に違和感を感じたことがあるか



* $p < .05$.

図4. 全体および男女ごとの, 質問2-1の結果

全体の76%が1から3のいずれかを選択した。若年層においても, ジェンダーステレオタイプに従った色の使われ方に違和感を感じる人は少なかった。また, その傾向は女性において若干強い傾向がみられた ($\chi^2(6) = 16.28, p = .012$)。

(2) ジェンダーステレオタイプに一致していない場合

他者の色の選び方や使い方がジェンダーステレオタイプに一致しない場面において, 違和感を抱いた経験があるかを尋ねた (図5)。

質問2-2: ジェンダーステレオタイプに一致しない, 他者の色の使用や選択に違和感を感じたことがあるか

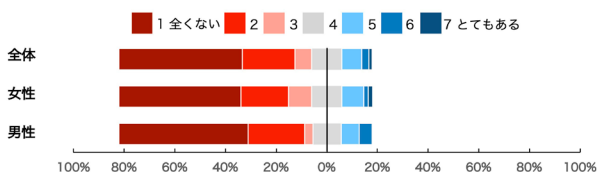


図5. 全体および男女ごとの, 質問2-2の結果

この質問においても, 全体の76%が1から3のいずれかを選択しており, 他者がジェンダーステレオタイプに一致しないような色の使い方をしていても, 気に

ならない人が多かった。

3.2.2 他者の色のあてがわれ方に関する違和感

他者が自身の意志とは無関係にあてがわれた色について、ジェンダーステレオタイプに関連した違和感を抱いた経験があるかどうかを尋ねた（付表2-3および2-4）。

(1) ジェンダーステレオタイプに一致している場合

他者にあてがわれた色がジェンダーステレオタイプに一致する場面において、違和感を感じた経験があるかを尋ねた（図6）。

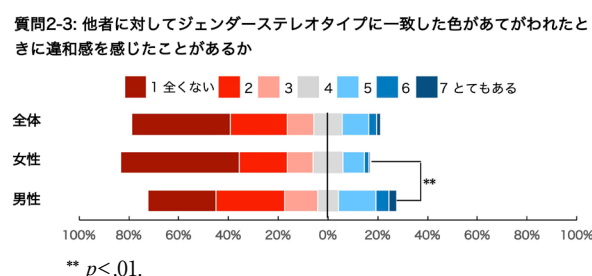


図6. 全体および男女ごとの、質問2-3の結果

全体の73%が1から3のいずれかを選択しており、ジェンダーステレオタイプと一致した色他者にあてがわれている場合に違和感を感ずる人は少なかった。ただし、男女の分布には差が認められ ($\chi^2(6) = 17.64, p = .007$)、女性の方が1(全くない)を選択しやすい傾向がみられた。

(2) ジェンダーステレオタイプに一致していない場合

他者にあてがわれた色がジェンダーステレオタイプに一致しない場面において、違和感を感じた経験があるかを尋ねた（図7）。

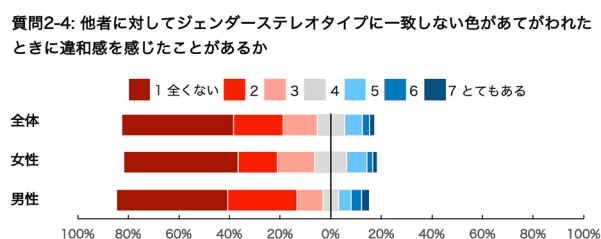


図7. 全体および男女ごとの、質問2-4の結果

全体の77%が1から3のいずれかを選択しており、他者にあてがわれている色がジェンダーステレオタイプとは一致しない場合であっても、違和感を覚えないと回答した人が大多数を占めた。

これらの傾向を総合的に判断すると、他者の色の使い方・選び方やあてがわれ方に関しては、多様性への理解が感じられる。事例回答のなかには、「その人が好きな色なら何色でもいいと思う」や「その人が好きな色だから身につけていると考えているため、全く気にしたことがない」という回答もみられた。しかし同時に、色のジェンダーステレオタイプに対する従来のな

認識もあるようであった。事例回答のなかには「女の人は青い服を着ていると違和感を感ずないが、おじさんがピンクのシャツを着ていると違和感を感ずてしまう」や「小さい頃に男友達がピンクのものばかりを身につけていて女の子っぽく感じたことがあった」といった意見もみられた。

4. まとめ

本稿では、表現者を目指す現代の若者が色のジェンダーステレオタイプについてどのように感じているのかを捉えることを目的として実施した調査の結果を報告した。ジェンダーに関する認識は過渡期であるといえ、現代の若者世代においても、従来型のジェンダーステレオタイプ的な色の使用などを許容しているケースもあれば、ステレオタイプにとらわれずに自由に色を選んだり使ったりするべきであるとするケースの両者がみられた。

本調査では、先述のとおり本稿で報告した質問項目以外にも、公共空間等の社会的場面におけるジェンダーステレオタイプに基づいた色の使用について違和感を感じた経験があるかを、全般的な意識と具体的な事例（トイレ・ベビー服・ランドセル）に分けて質問している（付表、質問3を参照）。これらの結果の報告は2024年1月に教育普及委員会主催にて開催の講座にて行う予定である。

本調査の計画においては、埼玉女子短期大学商学科教授山田雅子先生に多大なるご協力を賜った。ここに感謝の意を表する。

参考文献

- 1) 日本規格協会 (2019). JIS Z 8210 案内用図記号
- 2) 川口章 (2013). 日本のジェンダーを考える 有斐閣
- 3) 近江源太郎 (2004). 色彩心理入門 日本色研事業株式会社
- 4) 日本規格協会 (2018). JIS Z 9103:2018 図記号-安全色および安全標識-安全色の色度座標の範囲及び測定方法
- 5) United Nations (2015). Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development. Resolution 70/1 adopted by the General Assembly on 25 September 2015.
- 6) World Economic Forum (2023). Global Gender Gap Report 2023: Insight Report June 2023
- 7) 電通総研 (2023). 電通総研コンパス vol.11 ジェンダーに関する意識調査 2023年6月

付表. 本調査に使用した質問項目および回答法 一覧

質問項目		質問文	回答法
質問1：あなたの色の選び方・使い方について			
	1-1	「自分が色を選ぶときや使うときに、従来のジェンダーステレオタイプ（女性は赤、男性は青など）に関連した制限を感じた経験がありますか」	尺度
	1-2	「自分にあてがわれた色に対して、従来のジェンダーステレオタイプ（女性は赤、男性は青など）に関連した制限を感じた経験がありますか」	尺度
	1-3	他の人へのプレゼントにおける色の選び方について	尺度
	(1)	「自分が他の人にプレゼントを選ぶとき、従来のジェンダーステレオタイプ（女性は赤、男性は青など）に関連した色の制限を逸脱しないよう意識した経験がありますか」	尺度
	(2)	「自分が他の人にプレゼントを選ぶとき、従来のジェンダーステレオタイプ（女性は赤、男性は青など）に関連した色の制限に捕らわれないよう意識した経験がありますか」	尺度
	(3)	「自分が他の人にプレゼントを選ぶとき、商品の色の選択肢において、従来のジェンダーステレオタイプ（女性は赤、男性は青など）に関連した色の制限を感じた経験がありますか」	尺度
	1-4	「これらの問いに関わる具体的な事例があれば教えてください（任意）」	記述
質問2：他の人の色の選び方・使い方について			
	2-1	「他の人の色の選び方や使い方が従来のジェンダーステレオタイプ（女性は赤、男性は青など）に <u>一致しない</u> 場面において、違和感を抱いた経験がありますか」	尺度
	2-2	「他の人の色の選び方や使い方が従来のジェンダーステレオタイプ（女性は赤、男性は青など）に <u>一致している</u> 場面において、違和感を抱いた経験がありますか」	尺度
	2-3	「他の人にあてがわれた色が従来のジェンダーステレオタイプ（女性は赤、男性は青など）に <u>一致しない</u> 場面において、違和感を抱いた経験がありますか」	尺度
	2-4	「他の人にあてがわれた色が従来のジェンダーステレオタイプ（女性は赤、男性は青など）に <u>一致している</u> 場面において、違和感を抱いた経験がありますか」	尺度
	2-5	「これらの問いに関わる具体的な事例があれば教えてください（任意）」	記述
質問3：色のジェンダーステレオタイプに関する社会的事例に関する質問			
	3-1	「日常生活のなかで、ジェンダーステレオタイプ（女性は赤、男性は青など）に関連した色の使われ方を、社会的に望ましくないと感じた経験がありますか」	尺度
	3-2	トイレの色分けについて	
	(1)	「あなたの身の周りでは、女性用のトイレに何色が最も使われていると感じますか？」	色名選択
	(2)	「あなたの身の周りでは、男性用のトイレに何色が最も使われていると感じますか？」	色名選択
	(3)	「トイレのピクトグラムの女性マークに赤、男性マークに青が使われるべきだと思いますか」	尺度
	(4)	「理由を教えてください（任意）」	記述
	3-3	ベビー服の色わけについて	
	(1)	「あなたの身の周りでは、女の子の赤ちゃんは何色のベビー服を最も着ていると思いますか」	色名選択
	(2)	「あなたの身の周りでは、男の子の赤ちゃんは何色のベビー服を最も着ていると思いますか」	色名選択
	(3)	「女の子のベビー服にピンクが、男の子のベビー服に水色が使われるべきだと思いますか」	尺度
	(4)	「理由を教えてください（任意）」	
	3-4		
	(1)	「あなたが子どもの頃、あなたの身の周りでは、女の子の間では何色のランドセルが最も多く使われていましたか」	色名選択
	(2)	「あなたが子どもの頃、あなたの身の周りでは、男の子の間では何色のランドセルが最も多く使われていましたか」	色名選択
	(3)	「女の子のランドセルに赤やピンク、男の子のランドセルに黒や青が使われるべきだと思いますか」	尺度
	(4)	「理由を教えてください（任意）」	記述
	(5)	「あなたが使っていたランドセルの色を教えてください」	色名選択
	(6)	「あなたが使いたかったランドセルの色を教えてください」	色名選択
	(7)	「あなたはランドセルの色を自分で選びましたか」	選択肢
	3-5	「そのほかに、従来のジェンダーステレオタイプ（女性は赤、男性は青）に関連した色の使われ方について気になることがあれば教えてください（任意）」	記述